

《 2019年 2月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	12月	1月	2月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	20,014.77	20,773.49	21,385.16	2.9%	6.8%
	マザーズ指数	812.32	897.90	918.18	2.3%	13.0%
外国株式	S&P500	2,506.85	2,704.10	2,784.49	3.0%	11.1%
	MSCIEurope	1,486.40	1,574.17	1,638.03	4.1%	10.2%
新興国株式	上海総合指数	2,493.90	2,584.57	2,940.95	13.8%	17.9%
	ムンバイ SENSEX	36,068.33	36,256.69	35,867.44	-1.1%	-0.6%
海外金利	米政策金利	2.50	2.50	2.50	-	-
	米国債 10年	2.69	2.63	2.72	-	-
国内金利	政策金利	0.10	0.10	0.10	-	-
	10年物国債	0.00	0.00	0.00	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	109.56	108.87	111.37	2.3%	1.7%
	ユーロ	125.65	124.61	126.63	1.6%	0.8%
コモディティー	ICE 原油(先物)	45.41	53.79	57.22	6.4%	26.0%
	COMEX 金(先物)	1,281.30	1,320.33	1,316.10	-0.3%	2.7%
不動産	東証 REIT 指数	1,774.06	1,850.85	1,850.03	0.0%	4.3%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,189.86	1,215.15	1,222.84	0.6%	2.8%

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[2月の金融市場]

2月の日本株式市場は、商いの盛り上がりには欠けましたが、ジリ高で概ね堅調な値動きとなりました。月前半は米中貿易交渉を巡る報道によって一時的に大幅安になる場面もありましたが、月後半にかけては米国株の上昇を受け、底堅い動きが続きました。結局月間パフォーマンスは+2.9%となり、小幅ながら年初から2ヶ月連続上昇となっています。

米国株は、景気動向指数で悪い数字が相次いだものの、政府機関閉鎖による一時的要因との見方が支配的で、戻り歩調が持続しました。米中貿易交渉進展への期待と共に、足元の経済指標の悪化によりFRBの金融政策がさらにハト派的になるとの見方が背景にあるようです。NYダウは、1月の+7.2%に較べて上昇ピッチは鈍りましたが、2月も+3.6%と日本株を上回るパフォーマンスを記録しました。

為替市場では、リスクオンの流れからドル円で108円台から111円台まで3円程度じりじりとドル高円安が進む展開となりました。ユーロ円でも小動きながら円安ユーロ高基調が続きました。

米国10年債金利は、外部環境の安定を受け、概ね2.6%台で小動きに終始しました。2月の金融市場は世界的にボラティリティが低下し堅調な動きだったと言えます。

[今後の見通し]

年明け以降戻り歩調が続いた日本株ですが、3月になってようやく昨年10月高値から12月安値までの下げ幅の半値戻りを達成しました。上昇ピッチは緩やかで、2月中に80%以上の戻り率を見せた米国株に較べて出遅れ感は否めません。FRBのハト派転換という金融面からの支援材料があった米国株に対し、日本株は中国経済減速の悪影響を受けやすいという見方が戻りの差につながったようです。ただ、2月中旬以降は海外投資家が先物で日本株を大幅に買い越しており、その動向に変化が見られます。今後は日本株のアンダーパフォームは是正されるのではないのでしょうか。

米中貿易協定は猶予期限を延長してギリギリの交渉が続いていますが、最終的には合意に至り追加関税回避という着地が図られると見ています。3月中に米中首脳会談が開催され決着をアピールするという流れとなるでしょう。相当織り込んでいるとの見方もありますが、昨年来この問題が中国実体経済のみならず世界経済に与えた悪影響の大きさからすれば、大規模な反動が起こる可能性もあり得ます。特に知的財産問題で踏み込んだ合意が得られるかどうかは要注目です。その後市場の関心は、英国ブレグジット問題と本来の循環論的視点によるグローバル景気動向に移るでしょう。日本株は昨年来の20%強の大幅調整で、世界経済のリスク要因や成長率の鈍化を先取りする動きをみせました。しかし、年初来実体経済は依然として底堅さを維持し、米国金融政策も有効に機能しています。長期上昇波動は継続していると見て押し目は強気で臨みたいと考えます。3月の日経平均の予想レンジは21,200円~22,200円を想定しています。

◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

【2月のヘッジファンド動向】

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社(HFR社)が算出する2月のヘッジファンド・インデックスはプラス0.63%と続伸しました。

2月の金融市場は前月に引き続き、落ち着いた状況でした。ドル・インデックス(為替)や米国金利等に大きな変化は無く、主要先進国の株価指数については概ね3~4%の上昇を示しました。恐怖指数と称されるVIX指数も13ポイント台に低下する等、投資家の不安心理は大きく後退しました。そんな中、ヘッジファンドの戦略では株式ロング・ショートやマクロなどが成績を伸ばしました。市場に異常な動きが生じなかったことは、緻密な戦略を立て運用にあたるこれらのファンドにとって好都合だったと思われます。また、レラティブ・バリュエーションにおいても債券相場の落ち着きが計算通りの効果を上げた模様です。一方でCTAやイベント・ドリブンは成績を下げました。大きく変化する相場で短期の取引を繰り返すCTAにとって、この落ち着き払った市場は極めて劣悪な環境だったと言えます。またイベント・ドリブンについてもM&Aやファイナンス等の大型案件が少なく利益機会に恵まれませんでした。

「ホークスブリッジキャピタル」は昨年12月、久々に登場した大型の和製ヘッジファンドとして注目を浴びましたが、それに続いて「恵比寿キャピタル」が注目されています。この恵比寿キャピタルはモルガンスタンレーなどで実績を上げてきた志田隆氏が設立したヘッジファンドです。昨年5月に金融庁に登録され、株式ロング・ショート戦略を手掛けています。1月末にカナダの公的年金を運用するカナダ年金制度投資委員会(CPPIB)がこのファンドに数百億円の投資を開始したことが明らかになり、一躍注目を浴びることになりました。CPPIBは30兆円の資産を運用する、ヘッジファンド投資で有名な年金基金です。このCPPIBのお眼鏡にかなった恵比寿キャピタルは、ホークスブリッジキャピタルと同様に年金基金や金融機関など日本の投資家にも顧客層を広げて行くとしています。これらの和製ヘッジファンドの活躍は日本市場の活性化を促し、より魅力的な運用環境の実現に貢献してくれるものと思われます。

【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績(月別騰落率)】

	過去 12ヶ月	2019年		2018年			
		2月	1月	12月	11月	10月	9月
ヘッジファンド・インデックス	-4.10%	0.63%	2.13%	-1.93%	-0.62%	-3.11%	-0.69%
株式ロング・ショート	-6.52%	1.16%	3.92%	-4.23%	-0.63%	-3.95%	-1.63%
イベント・ドリブン	-7.09%	-0.18%	2.53%	-1.18%	-0.88%	-4.57%	-0.51%
レラティブ・バリュエーション	0.25%	0.30%	2.48%	-2.02%	-0.66%	-1.04%	0.13%
マクロ	-3.17%	0.76%	-1.91%	0.76%	-0.19%	-2.65%	-0.63%
CTA	-4.72%	-0.02%	-2.59%	1.20%	-0.24%	-3.63%	-0.59%

データ出所：HFR社

3 月期末配当・優待銘柄

足元の株式相場は、昨年末の安値から緩やかに回復しつつあり、日経平均株価は 21,500 円程度と、昨年の高値と安値の半値戻しという位置にあります。今の所大きな押しもなく、日本企業の業績が比較的堅調に推移していることが伺えます。

そんな中、とりわけ 3 月末（権利付き＝3 月 26 日）は多くの会社が決算発表を行います。そこで注目されるのが、株主配当と優待制度です。昨年末の下落から割安な銘柄が多く、権利落ち後でも配当や優待相当額よりも株価が下落しない事や、戻りが早い事が期待されます。

以下に、3 月末決算の高配当銘柄と人気優待銘柄をご紹介します。

【 注目の高配当銘柄 】

コード	銘柄名	株価	配当利回り (%)	一株配当金 (円)
8628	松井証券	1,208 円	6.95	84
7201	日産自動車	962.4 円	5.92	57
1808	長谷工	1,391 円	5.75	80
8304	あおぞら銀行	3,210 円	5.73	184
9434	ソフトバンク	1,390 円	5.39	37.5
7270	SUBARU	2,826.5 円	5.09	144
5002	昭和シェル石油	1,670 円	5.07	106
5411	J F EHD	1,941.5 円	4.89	95
4188	三菱ケミカルHD	821.9 円	4.86	40
8035	東京エレクトロン	15,150 円	4.77	724
8591	オリックス	1,612 円	4.71	76
8473	S B I	2,344 円	4.69	110
8053	住友商事	1,600.5 円	4.68	75
5938	LIXIL G	1,509 円	4.63	70
8766	東京海上	5,426 円	4.6	250

※配当利回りは 2019 年 2 月 28 日終値現在の QUICK におけるデータベースに基づく。

なお、時価総額が 3,000 億円以上の銘柄を選出。

【 注目の優待銘柄 】

コード	銘柄略称	株価	優待内容
2269	明治HD	8,820円	100株で2,000円相当の自社グループ製品詰合せ。
2296	伊藤ハム米久	671円	1,000株で自社商品5,000円相当。
2882	イートアンド	1,740円	100株で3,000円相当の大阪王将等の食事券や自社製品。
2928	RIZAP	431円	100株で自社グループ製品交換ポイント(2,000円相当)。
3397	トリドール	2,253円	100株で自社で利用可能な100円割引券20枚(2,000円分)。
4661	OLC	12,230円	100株でディズニーリゾート1デーパスポート1枚。
4680	ラウンドワン	1,448円	100株で自社で利用可能な500円割引券4枚等。
7421	カップ・クリエイト	1,458円	100株で自社商品と交換可優待な3,000ポイント。
7552	ハピネット	1,424円	100株で自社優待カタログ。
7867	タカラトミー	1,134円	100株でオリジナル「トミカ」2台セット。
8153	モスフード	2,801円	100株で自社で利用可能な500円割引券2枚。
8214	AOKI	1,250円	100株で自社で利用可能な20%割引券5枚。
8473	SBIHD	2,344円	100株で9,000円分の健康食品等。
8591	オリックス	1,612円	100株でカタログギフト及びレンタカーや水族館等各種割引券。
9433	KDDI	2,688.5円	100株で3,000円相当のカタログギフト(5年以上で5,000円相当)。

※どの優待内容も原則、最小単位のものを表示しています。そのため、株数によっては優待内容が異なる場合があります。

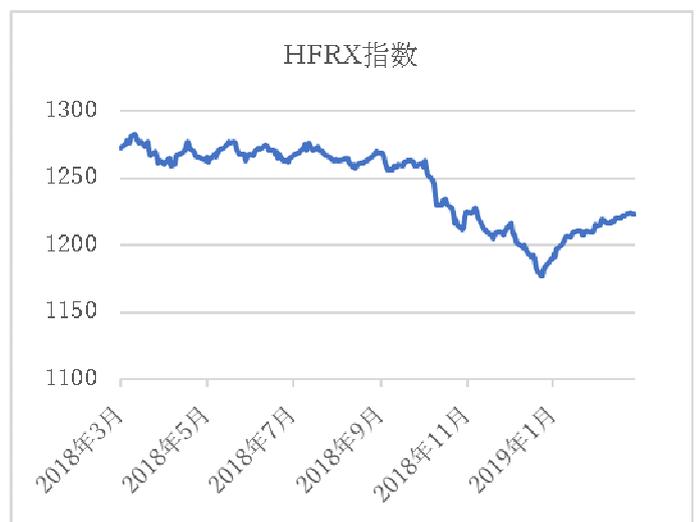
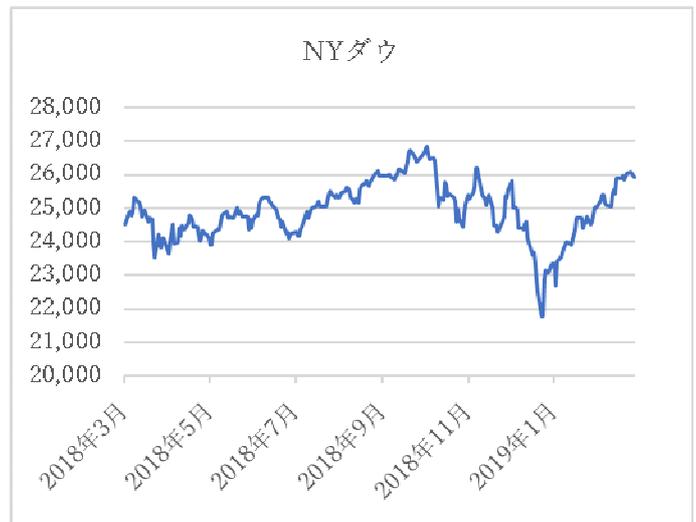
※株価は2/28の終値。

【 そもそも株主優待って 】

企業が株主優待制度を設ける主な理由としては、自社の事業内容や商品をより多くの投資家に知ってもらおうという意図があり、同時に自社の株をできるだけ多くの個人投資家に保有してもらう目的が挙げられます。そのため保有期間が長いことや、一定数以上の株式を保持することで、より良い優待内容となる場合があります。現在、この株主優待制度は全上場企業の4分の1以上が実施しており、年々増加傾向にあります。

日本では馴染みのある「株主優待」ですが、企業がこの制度を導入することについて法的な定めがあるわけではなく、欧米をはじめ諸外国においては、殆ど設けられていないようです。また、海外投資家や海外への優待発送なども行われていません。

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 . . . 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド) . . . 樋爪 功次

そうだったのか!「知って納得、証券投資」Vol.116 . . . 金井 良記
3月期末配当・優待銘柄

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

本資料の表・グラフのデータ出所：THOMSON REUTERS 他

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

